



※SDGs(Sustainable Development Goals、エスディージーズ) =持続可能な開発目標。国連が掲げる国際目標で、環境や人権など、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットから構成されています。

「飢餓パンデミック瀬戸際」

今年のノーベル平和賞を受賞した「国連世界食糧計画」(WFP)の焼家直絵日本事務所(横浜)代表にインタビューを行った。同賞受賞の意義や、世界における飢餓の現状、私たちがなすべきことなどについて話を伺ったが、焼家代表は、コロナ禍により発展途上で食糧不安が急速に高まり、「飢餓パンデミック(世界的大流行)の瀬戸際」と強い危機感を示した。

コロナ禍に強い危機感

「始めに、ノーベル賞受賞の感想や意義についてお聞かせください。飢餓問題の解決が平和への礎と信じ、食糧支援を続けてきましたが、受賞は最前線の活動が評価されたと感じています。政府や企業、市民団体などさまざまなパートナーの皆さまの支援あってこそ、大変感謝しております。受賞を機に、支援を届ける重要な機会を感じています。一國主義や保護主義が台頭するなか、多国間協調主義の大切さを訴えながら、勢いをつけて飢餓の解決に励んでいきます。」

WFP 焼家直絵代表に聞く



①コロナ禍による飢餓急増の窮状を訴える焼家WFP日本事務所代表(東京・国連大学ビル) ②2018年1月、ブルンジで行われたWFPの学校給食支援(Photo:WFP/Hugh Rutherford)

都市封鎖や国家封鎖により、移動の自由が制限され、物流やフードシステムが大混乱。国によっては困り込みにより、支援食糧が隔々まで届かなくなっています。一方で、農業や経済活動ができずに日銭がなくなったり、出稼ぎ先

「恩送り」とある。受けた恩を返すのは「恩れに対し、別の恩送り」が「恩送り」である。さらには別の恩を返す、世帯を繋ぐ恩送りもある。恩返しは恩返し、恩送りも、ちょっとした恩送りから始まる。か

横浜市 可視化ツール 使い授業展開

C02排出状況一目で

横浜市は、ゲーグルが提供する温室効果ガス排出量可視化ツール「EIE」(Environmental Insights Exp)を用いた授業を、市内の中学、高校、大学で展開している。脱炭素化の実現に向け、家庭からの排出を抑制するための啓発活動の一環として、EIEは、同社の地図データを活用、C02排出量データを分析し、建物や自動車、交通機関の省エネや再生可能エネルギー(再エネ)導入の潜在力を可視化した。

温室効果ガス排出量可視化ツールを使って行われた授業(横浜市提供)



栄区の市立西本郷中学校では11月19、20日に授業が行われ、温暖化対策統括本部の職員が講師を務めた。生徒らは①温室効果ガスの必要以

太陽住建 グッドライフアワード大臣賞受賞 空き家で防災拠点づくり



河原 勇輝社長

SDGs 新年の誓い メッセージを募

環境省第8回グッドライフアワードの環境大臣賞・地域コミュニティ部門賞に、太陽住建(横浜市南区、河原勇輝社長)の「空き家×太陽光発電」から始まる地域循環共生

上の増加で、地球から熱が出て行きにくくなり気温が上がる。②日本は世界5位のC02排出国で、世界の約3・4%を占める。③横浜市のC02排出量のうち家庭部門が24・0%を占め、全国(15・8%)の傾向と大きく異なる。ことなどを学んだ。続いて、同ツールを使って、横浜地域の排出状況や、太陽

「SDGs 横浜の挑戦」編集。1500~2000編集室で選んだメッセージは、随時紹介。電子メール(sds